

令和8年度 公立昭和病院医師労働時間短縮計画

1. 労務管理・健康管理

項目	令和8年度取組目標
労働時間管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間外勤務の明確化と変形労働時間制の活用を検討 ・ 出退勤時間登録のチェック体制の強化
宿日直許可の有無を踏まえた時間管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿日直許可に基づき回数、業務内容等の実態を確認し、宿日直勤務下における通常診療行為時間の適切な把握
医師の研鑽の労働時間該当性を明確化するための手続等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己研鑽について労働時間該当性の有無を明確にするため、各診療科部長と面談等で確認のうえ、申請の手続を周知し管理する。 ・ 自己研鑽の時間を把握するための就業システム改修を検討
労使の話し合い、36協定の締結	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の過半数代表者と協議・締結し、届け出た36協定を院内ポータルに掲載し、職員へ周知 ・ 36協定を1年に1回、実態に即して見直しを実施 ・ 上記事項に加え、協定見直しの際は特例水準医師又は対象となる診療科の所属長から意見を聴取する。
衛生委員会、産業医等の活用、面接指導の実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働安全衛生委員会を月1回開催 ・ 健康診断を年2回実施 ・ 長時間労働の医師に希望をとり、産業医が面談を実施 ・ 上記事項に加え、当月の時間外が100時間に到達する見込みの医師がいる場合は、到達前に面接指導を実施
追加的健康確保措置の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連続勤務時間制限、勤務間インターバル確保及び代償休息確保などを可能とする勤務体制とし、対象医師への面接指導を漏れなく実施する。 ・ 面接指導医研修の受講を促進し、面接指導医師を増員
管理者マネジメント研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国等が実施する病院長向けの研修会に病院長等が参加 ・ 診療科部長向けに管理者マネジメント研修を開催し受講を促す。
勤怠管理研修	<p>勤怠管理方法等について、引き続き必要事項を記載した資料を院内ポータルサイトで周知するとともに、在職医師に対して年に1回eラーニングの研修等を実施し、理解を促す。</p> <p>また、B水準、C-1水準適用医師に対して、勤怠管理方法等（始業・退勤時刻の申請、健康管理の重要性、面接指導の受診、勤務間インターバル確保等）に関する研修を年1回実施する。</p>

2. 労働時間短縮に向けた取組

(1) タスク・シフト／シェア

項目	令和8年度取組目標
看護師・助産師	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院内特定行為研修2名受講支援強化（100%年度内修了） ・ 令和9年度の当院看護師4名＋他施設看護師2名の受講受け入れを目指した体制構築 ・ 病棟看護師負担軽減を目指し患者支援室における入院前面談数増加（年間2,000件）および緊急入院対応強化 ・ 病棟師長負担軽減のためインフォメーション業務の集約化（100%患者支援室でカバーする） ・ 救急患者応需時間短縮（月平均8分以下）、応需率増加（80%以上）、断り率減少（25%以下）を目指し、点滴検査等のプロトコル使用による看護師のトリアージと実践拡大 ・ 医療DX見守りカメラ等に加え、眠りスキャン導入（3部署以上）による見守り体制強化により看護師負担軽減および残業時間短縮（平均9.5時間以下） ・ 診療医師負担軽減を目指し、病棟再編によるベッド利用の効率強化（稼動90%以上）
薬剤師	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロトコルに基づき、メーカー変更時およびコメント等の処方・注射オーダー修正・削除の入力代行 2. 手術室に専任薬剤師をおき、薬剤払出し支援と管理および、病棟薬剤師と連携して周術期における薬学的管理（抗血栓薬の休薬と再開確認の強化）、術後管理チームにおける術後疼痛コントロールの実施 3. 外来がん化学療法をおこなっている患者に対し、薬剤師の診察前面談による薬学的管理および処方提案 4. 外来患者のインスリン等自己注射等に関する、薬剤を適切に使用するための実技指導の強化
栄養士	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種連携による早期・周術期栄養管理の実施 ・ 栄養スクリーニング・栄養評価の実施、食物アレルギーの確認 ・ 医師の指示に基づき食事オーダーの変更 ・ 上記各項について医師・看護師・栄養士で情報共有

放射線技師	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療放射線技師による放射線管理区域内への患者誘導 ・ 医師の事前指示に基づく、撮影部位の確認・追加撮影オーダー ・ 特殊検査時のチューブ留置 ・ 下部消化管検査（CTコロノグラフィ検査を含む。）のため、注入した造影剤及び空気を吸引する行為 ・ 告示研修の終了に伴い目標に取り組める人員の育成
臨床検査技師	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下肢静脈エコーの実施と記録
臨床工学技士	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師の具体的指示の下、全身麻酔装置の操作や人工心肺装置を操作して行う血液、補液及び薬剤の投与量の設定等 ・ 同意後の遠隔モニタリングの説明 ・ スティムレータ・アブレターの操作 ・ 医師の指示の下、除細動器の操作 ・ 動脈表在化の穿刺・抜針止血 ・ 心臓・血管カテーテル検査・治療における直接浸襲を伴わない検査装置の操作（超音波や心電図、血管内の血圧の観察・測定等）
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	<ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリの目的・目標などの説明と同意 ・ リハビリに関する書類の作成、所見の下書きの作成 ・ リハ病名に関する医事課との確認業務の継続
視能訓練士	<ul style="list-style-type: none"> ・ アトロピン点眼検査について、検査の目的・実施方法・注意事項などの説明 ・ 斜視弱視外来における、小児の視能矯正・視能訓練についての説明 ・ 眼鏡処方箋の作成 ・ 弱視等治療用眼鏡等作成指示書の作成 ・ 診療情報提供書の添付書類の作成（斜視弱視外来での検査結果・訓練の経過など） ・ 3歳児精密健康診査受診票における、検査結果の記載
医師事務作業補助者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師事務作業補助者による書類作成をより充実させる ・ オーダーの代行入力範囲を拡大できるよう努める
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者サポートセンターで入院前栄養スクリーニング、栄養評価の実施、食物アレルギーの確認 ・ 入院前常用薬、アレルギー歴等の確認、休薬する薬剤の説明、持参薬オーダーの入力

(2) 医師の業務の見直し

項目	令和8年度取組目標
----	-----------

診療体制等の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・複数主治医制の一部実施 ・宿直明けの勤務軽減（職務免除）の実施 ・病状説明の勤務時間内実施 ・当直日誌記入のシステム化により、宿日直中の業務内容・時間を明確化
-----------	---

（３）その他の勤務環境改善

項目	令和８年度取組目標
ICT その他の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ A I 問診システムの活用（救急外来） ・ 勤務医の地域連携システムの活用 ・ 院内保育園の運営

（４）副業・兼業を行う医師の労働時間の管理

副業・兼業を行う医師の労働時間の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 兼業許可の事前申請の徹底の周知 ・ 就業システムに兼業先の労働時間入力画面を追加
--------------------	---

（５）C-1 水準を適用する臨床研修医の研修の効率化

C-1 水準を適用する臨床研修医の研修の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・ P G - E P O C 導入による評価の効率化 ・ カンファ担当者の事前通知による年間スケジュールの把握 ・ 宿直明けの勤務軽減（職務免除）
-------------------------	--